

定例教育委員会資料
平成30年4月23日
文化財課
電話 20-3367 (内線 5135)

史跡鳥取城跡附太閤ヶ平擬宝珠橋復元工事完成セレモニー

重要文化財旧美歎水源地水道施設グランドオープン

の開催について

① 史跡鳥取城跡附太閤ヶ平擬宝珠橋復元工事完成セレモニー

鳥取城跡は、昭和32年に史跡指定を受け、昭和34年より石垣などの保存修理事業を進めてきました。平成17年度には「保存整備基本計画」を策定し、復元整備の第一段階として、平成30年度を目標に「大手登城路」の復元整備を行うこととし、計画的に事業を進めています。発掘調査の成果の反映や学術成果を反映した設計を実施し、文化庁と正確な復元のための協議を続けてきた結果、「擬宝珠橋」については計画通り、平成30年度9月下旬に完成する予定となりました。これに併せて、明治150年記念事業、本市の中核市移行記念事業として、復元工事の完成した「擬宝珠橋」について、下記のとおり渡り初めを行います。

(1) 事業の概要

- (ア) 開催日時 平成30年9月30日(予定)
- (イ) 会場 史跡鳥取城跡 擬宝珠橋(東町・久松公園内)
- (ウ) 招待予定者 池田百合子氏(旧藩主池田家当主) 文化庁 他
- (エ) 内容

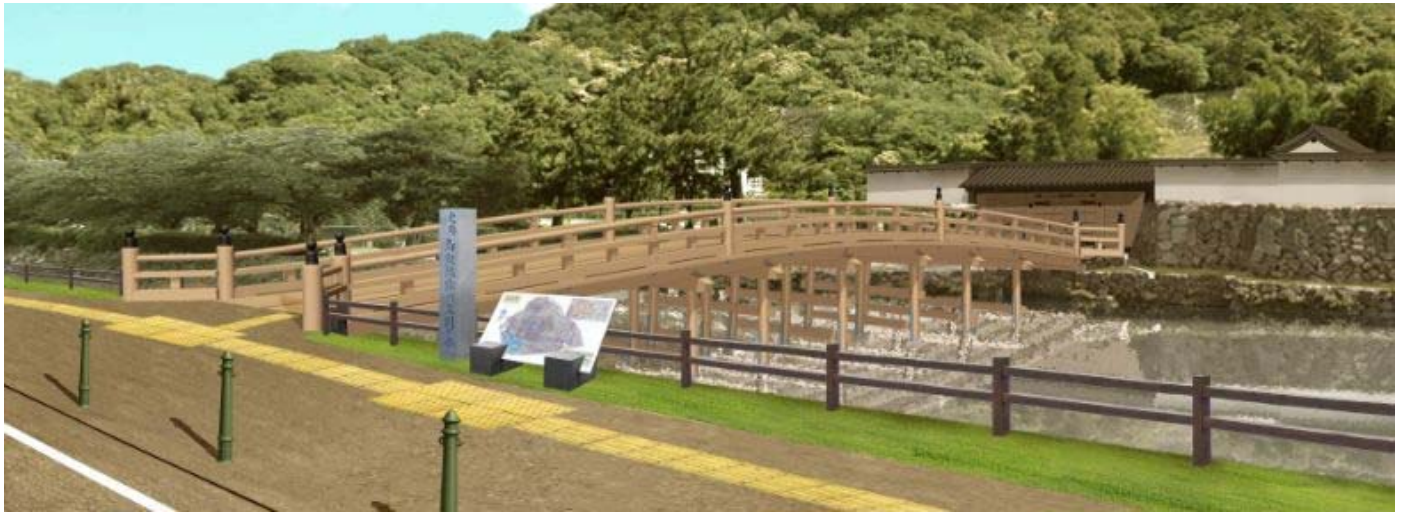
市長をはじめとする事業関係者のほか、旧藩主池田家の現当主・池田百合子氏、歴史上鳥取城とゆかりの深い人々が橋を渡り、明治12年の取り壊し以来、最初の復元となった擬宝珠橋の復元を祝います。

(2) その他

その他の建物についても、やや工程は遅れているが、平成35年頃には順次完成できる見込みです。(今後の工程については30年度内に検討し、「保存整備基本計画」を一部改訂して対応する)



大手登城路復元イメージ図



擬宝珠橋・中ノ御門復元イメージ図

【参考】

(1) 史跡鳥取城跡 擬宝珠橋（復元）の概要

全長 約36m 全幅 約6m

材質 クリ・ヒノキ

特徴など 復元橋としては日本最長級の橋である。

水中に残る橋脚遺構を保存するため、コンクリート橋の杭・基礎を利用して水中にステンレス製の水中梁を設ける。

鳥取城の大手の橋として、参勤交代の玄関になっていたほか、藩領の測量の起点ともなっていた。

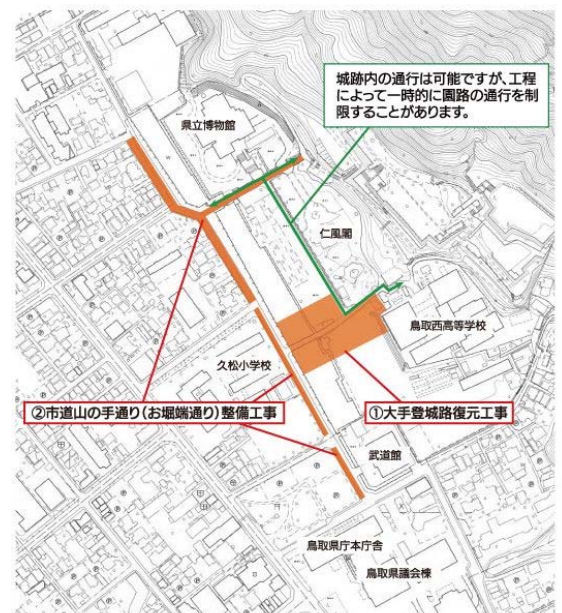
江戸時代に月見の宴が催されたり、端午の節句には若殿が橋の上に陣取って祭礼を見物するなど、さまざまに活用されていた。

事業費（擬宝珠橋復元整備工事・概算） 約550,000千円（28年度～30年度）

(2) その他の関連事業

市道山の手通り（お堀端通り）整備工事

擬宝珠橋の復元に合わせてお堀端の景観整備を行うため、平成29年度から電線の地中化工事に着手しており、平成30～31年度には歩道拡幅や歩車道の美装化工事も実施します。



②重要文化財旧美歎水源地水道施設グランドオープン

本市では、大正4年に完成し、全国的にも貴重な近代水道の遺構として平成19年6月18日に国の重要文化財に指定された旧美歎水源地水道施設について、平成20年度に策定した保存整備基本計画、平成25年度に策定し文化庁の承認を受けた保存整備活用計画に沿って、保存整備事業をすすめてきました。すでに文化財建造物の修理は平成30年3月に完了し、4月8日より見学できる状態となっており、現在はガイダンス施設の展示工事等、活用のための仕上げの整備を実施しています。施設全体のグランドオープンと記念事業を平成30年10月27日に開催する予定ですので、その概要を報告します。

(1) 事業の概要

- | | |
|-----------|---------------------------|
| (1) 開催日時 | 平成30年10月27日(予定) |
| (2) 会場 | 重要文化財旧美歎水源地水道施設(鳥取市国府町美歎) |
| (3) 招待予定者 | 文化庁・関係者 他 |
| (4) 内容 | |

市長をはじめとする事業関係者がテープカット等を行い、重要文化財旧美歎水源地水道施設の保存整備事業の完成とグランドオープンを祝います。

内容を精査中ですが、このセレモニーにあわせ、修理や活用を検討していただいた「重要文化財旧美歎水源地水道施設保存整備検討委員会」の委員や、長期にわたって指導助言いただいた文化庁、専門家によるシンポジウムや基調講演、地元保存会等によるイベントの実施などを検討しています。

(2) その他



堰堤側よりみた旧美歎水源地水道施設 ろ過池など(写真は工事中)